



主に数値流体力学、再生可能エネルギーの研究に取り組む、本県沖で整備が進む洋上風力発電にも深く関わってきた。これまでの経験から「しっかりとしたものづくりには、有能な人材が必要」と話す。人材育成の使命を果たしながら、大館の産業発展に貢献したい考えだ。

愛知県出身。東京工業大学

# 人材育成に使命感

秋田職能短大校長

中村 雅英<sup>さん</sup> (68)

大学院修士課程修了。日立製作所エネルギー研究所に勤めた後、1999年に秋田大学工学資源学部教授、2021年に同大名誉教授に就任した。再生可能エネルギーには造詣が深い。洋上風力発電整備に向けた協議会にも座長として関わった。原子力の性能、安全性なども研究し、「エネルギーにはプラスの面とマイナスの面があり、理想的なものは一つもない」と話す。

「原子力も風力も火力も、もっと良くなるかもしれない。発展には技術者の育成が必要」と強調。科学技術が急速に進展する中でも「全てはしっかりととしたものづくりの上になり立つ。基礎の重要性を伝えたい」と、人材育成の重要性と職能短大の意義を掲げる。

大館鳳鳴高のスーパーサイエンスハイスクールの委員だった際に度々大館市を訪れた。「きれいな街」と気に入った。休日も足を運ぶように。花善の「鶏めし」が好物という。企業とも広く、さまざまな分野で連携したい考え。「大館の発展、産業振興に寄与したい」との思いを持っている。

